クランクベイトの自作４　－ ブランクの型の作製 －

１　はじめに

前回はマスターブランクの作製でした。今回は、マスターブランクを使って、ブランクを作るための型を作ります。

２　ブランクの型の作製

マスターブランクを使って、粘土を詰め込むための型（ブランクの型）を作ります。

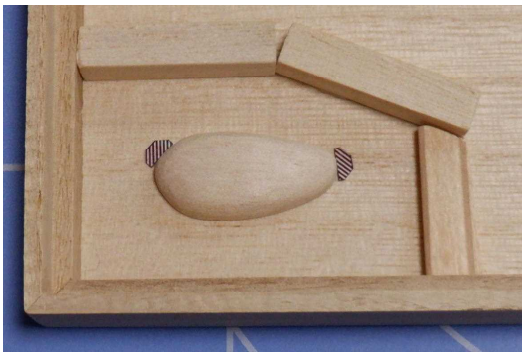
①　マスターブランクを2つに割る

作製したマスターブランクは両面テープで貼り付けた2枚の板からできています。マスターブランクを貼り合わせたところで2枚に割ります。カッターナイフを隙間に入れて、徐々に広げていく要領です。

②　片方のマスターブランクを板に貼る

片方のマスターブランクを板の上に両面テープで貼ります。おゆプラが広がりすぎないように、マスターブランクの周りは囲ってあります。また、ラインアイとフックアイが付くところには、厚紙（古はがき）で作った型紙を貼りました。

アイのところを後から彫刻刀で削ろうとしましたが、上手くいかなかったので、この方法を取りました。型紙はもっと厚い方が良かったです。例えば、古はがきを2枚重ねるとか、牛乳パックで作ると良かったかもしれません。



③「おゆプラ」で型を取る

「おゆプラ」で型を取ります。「おゆプラ」は百円ショップ「ダイソー」で購入しました。「おゆプラ」は80℃以上で柔らかくなり、冷えると固まります。3個で100円です。今回は3個使いました。2個でも十分ですが、型を厚くしたかったので3個にしました。

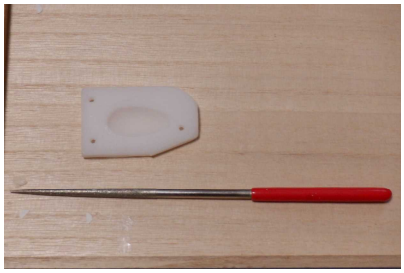
熱湯をビンに入れます。そこに「おゆプラ」を3個入れます。しばらくすると、柔らかくなるので、割り箸で取り上げ、水分をキッチンペーパーで拭き取ります。柔らかくなった3個のおゆプラを1つにまとめます。空気が入った場合は、そこを潰すようにしてまとめます。程よくまとまった時には、温度が下がっているので、再び、熱湯の入ったビンに入れて、おゆプラを柔らかくします。

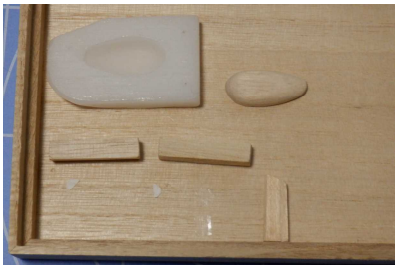
柔らかくなったら、割り箸で取り上げ、水分をキッチンペーパーで取ります。直ちに、板に貼られたマスターブランクに「おゆプラ」を押しつけます。マスターブランクの縁がはっきり出るように、意識して押しつけます。

おゆプラが冷えて固まる前に、釘で穴を3カ所開けました。完全には穴が開きません。後でヤスリで整えます。

完全に冷え固まるまで待ちます。

冷え固まったら、丸ヤスリで3つの穴を調えます。「おゆプラ」の周りを囲む形を四角形にしなかったり、穴を3カ所開けたりするのは、2つの型を合わせるときに、ぴったりと合うようにするためです。

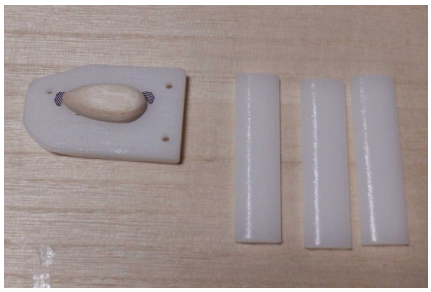


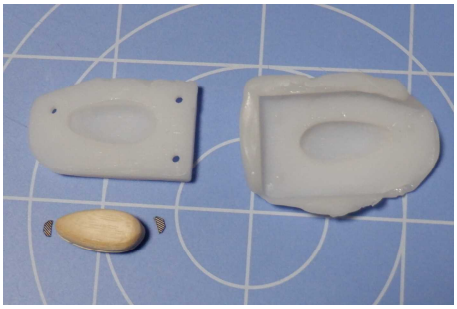


④ マスターブランクを貼り合わせて、もう一方の型を取る

2つに割ってあったマスターブランクを貼り合わせ、先程、作った型にはめ込みます。ラインアイ・フックアイの型紙は2枚貼り合わせてから、同様に型にはめます。この上から、柔らかくなった「おゆプラ」を押しつけます。「おゆプラ」は3個使いました。先に作った型の3辺を包むようにしました。これも、2つの型を合わせたときにずれないようにするためです。

冷えて固まれば、型を2つに分けます。これで完成です。





【完成】

3　終わりに

マスターブランクの型紙にはリップを付ける位置が切り取られていましたが、マスターブランクではその切れ込みを入れずに型を作りました。試作品が納得のいくものになれば、あらためてマスターブランクにリップの切り込みを入れて、再度、型を作ろうと考えたからです。

ラインアイ・フックアイの位置に型紙を入れるというアイディアは良かったです。「おゆプラ」が冷えてから、繊細な形を彫刻刀で削るというのは難しいからです。型紙がもっと厚い方が良かったかもしれません。

「おゆプラ」も冷えると縮むようで、最初に作った型と後から作った型で大きさ（形）にずれが生じました。最初に作った型は小さめで、後から作った型は大きめとなりました。左右が若干アンバランスとなりま

した。形にこだわるなら改善の余地があります。釣れるルアーということなら許容範囲でしょう。

左右の型をぴったりと貼り合わせられる工夫をしましたが、上手くいきませんでした。貼り合わせの時（ブランク作成時）にその当たりを意識する必要があります。（技術が必要です。）「おゆプラ」は硬くなるとは言え、両型を押しつけ合ったときに、歪みが生じるからです。

次回は、ワイヤーフレーム（ラインアイとフックアイ）の作製です。